

大学等コアリション  
地域ゼロカーボンワーキンググループ・人材育成ワーキンググループ  
合同シンポジウム

「2050年カーボンニュートラルに向け、地域で活躍する人づくり」

趣旨説明

2023年2月21日

地域ゼロカーボンワーキンググループ ワーキンググループ  
信州大学・東海国立大学機構・宮城大学

【参考：地域WGのミッション(2021年7月29日総会)】

カーボン・ニュートラルに向けた地域の社会変革を促すための大学と自治体等、企業が連携した取組の推進や、地域事例の横展開やスケールアップ等を支えるための知見の創出とその実装を通じ、多様な地域モデルの構築や他の地域等への展開を図るとともに、取組等を通じて抽出した課題等の共有、議論、発信を行う。

# 大学等コアリション 地域ゼロカーボンワーキンググループ 86参加・協力機関一覧

2023年2月時点、全体事務局から提供された名簿より抜粋(順不同)。赤字は運営委員

国立大学(36校): 千葉大学 香川大学 山形大学 茨城大学 弘前大学 豊橋技術科学大学 北見工業大学 九州工業大学 北海道大学 東北大学 筑波大学 信州大学 横浜国立大学 熊本大学 福島大学 金沢大学 和歌山大学 秋田大学 北陸先端科学技術大学院大学 名古屋工業大学 東京大学 三重大学 岩手大学 鳥取大学 愛媛大学 静岡大学 東海国立大学機構 埼玉大学 鹿児島大学 島根大学 佐賀大学 富山大学 岡山大学 大阪大学 神戸大学 高知大学

公立大学(11校): 東京都立大学 岡山県立大学 高崎経済大学 山梨県立大学 東京都立産業技術大学院大学 宮城大学 北九州市立大学 長野県立大学 高知工科大学 横浜市立大学 富山県立大学

私立大学(25校): 徳島文理大学 芝浦工業大学 愛知工業大学 八戸工業大学 日本工業大学 中部大学 西日本工業大学 東邦大学 四国大学 創価大学 日本大学 岡山理科大学 龍谷大学 関西学院大学 京都先端科学大学 青山学院大学 長崎国際大学 長崎総合科学大学 専修大学 神奈川大学 立命館大学 中京大学 東洋大学 国際基督教大学 京都女子大学

その他(2機関): 地球環境戦略研究機関 国立環境研究所

協力機関(11機関): 産業技術総合研究所 地球環境産業技術研究機構 理化学研究所 サステイナブルキャンパス推進協議会 新エネルギー・産業技術総合開発機構 科学技術振興機構 損害保険ジャパン株式会社 株式会社球磨村森電力 株式会社ポーラ 日本電気株式会社(NEC) 一般社団法人社会デザイン協会 株式会社ベイシスコンサルティング

## (1) ワーキンググループの成果と課題の概要

---

### アウトプット:

- 3枚スライドの収集・分析 (65/86参加・協力機関が提出)
- 4回のワーキンググループ会合の実施 (2021年11月、2022年2月、7月、12月)
- 1回のシンポジウムの実施 (2022年3月、参加者205名)
- ウェブページの更新 (3枚スライドの掲載、大学インタビューの掲載など)
- 1回の運営委員会の実施 (2022年6月)

### アウトカム:

- 昨年総会時76→現在86参加・協力機関のプラットフォームが立ち上がった。
- ワーキンググループ会合での事例発表および分科会での情報交換により、ワーキンググループの方向性を共有できた。

### 課題:

幹事大学中心 (2021年9月~2023年2月、計19回の幹事大学会合) → 参加大学のオーナーシップ醸成へ  
→ 運営委員会の開催や、役割の分業化 (分科会の進行など) などを通じて、参加機関全体での意識の共有を図りたい。



# 地域ゼロカーボンWG 参加・協力機関から提出されたスライド一覧 (提出イメージ)



WGへの86参加・協力機関のうち、これまでに**65機関**が3枚スライドを提出

3枚スライドの更新版を随時受付中。  
また、掲載許可のあったスライドについて、ウェブサイトにて紹介。

大学等コアリションについて    WGについて    最新情報    参加機関紹介    事務局からの発信    運営体制    参加方法    問合せ先

**参加機関** (50音順 80校)

「地域ゼロカーボンワーキンググループでは、各参加大学・機関にそれぞれの取組や課題をまとめてもらい、それらをもとにワーキンググループ発足の議論を遂行しています。以下参加大学・機関名の横のPDFアイコンをクリックいただくと、それぞれの取組事例や課題等をご覧いただけます。

国立大学 (36校)			
秋田大学	茨城大学	岩手大学	愛媛大学
大阪大学	岡山大学	香川大学	鹿児島大学
金沢大学	北見工業大学	九州工業大学	熊本大学
高知大学	神戸大学	埼玉大学	信州大学
静岡大学	鳥取大学	佐州大学	千葉大学
筑波大学	東海国立大学機構	東京大学	東北大学
鳥取大学	富山大学	香川技術科学大学	名古屋工業大学
弘前大学	福島大学	北陸先端科学技術大学院大学	北海道大学
三重大学	山形大学	横浜国立大学	和歌山大学

<https://uccn2050.jp/working-group/region/>

## (2) 今後の具体的な取り組みについての概要

---

(短期)

- ワーキンググループ会合(含む分科会)の実施 😊
- シンポジウムの実施 😊
- 3枚スライド更新版の収集→WEBページ掲載や、横串事例集の作成
- 成功事例のみならず、課題や失敗例の共有。悩み相談への対応 😊

(中長期: ~2025年で終わってしまうのはもったいないので、その先の期待も込めて、できれば2050年目標)

目標・望ましい姿:

- 各地域に地域自走のプラットフォームがあり、各プラットフォームが緩く連携したメタプラットフォームとして機能することを期待。プラットフォームの無い地域のモデルとなる。WGが全国版プラットフォームとなれるように検討
- 大学の先端知に加えて各地域のプラットフォームの実践知や経験知を、総合知としてメタプラットフォームで機能することが、地域ゼロカーボンワーキンググループの真価
- ワーキンググループ活動の出口の一つとして、地域の計画づくりに関与  
→ これを実現できるような具体的な活動について、今後検討をすすめていく

## これまでの振り返り、地域ゼロカーボンWGとしての提言

- 脱炭素・カーボンニュートラル、生態系の保全、地域の安全な暮らしを**トレードオフにしない**
- **地域の特性**を把握し、それを活かした、**それぞれの地域のゼロカーボン**を相乗効果をもって進めていく
- どんな**システムを構築**し、どのように**合意形成**を進めるか  
「トップダウン⇔ボトムアップ」併用 → 誰もが納得できる方法

### 1 WG内での**情報交換・知見共有**の促進

単体の好事例のみならず、学内の連携事例、複数大学での取り組み、他のアクターとの協働事例や、地域を跨いだ取り組みなど

### 2 コアリションの**他のWGとの交流促進**→総力結集

イノベーション、人材育成、ゼロカーボンキャンパス、国際

本日のシンポジウムは  
最初の一歩

### 3 自治体、企業、NGO/NPOなど**他のアクターとの協働促進**

共同研究・開発、実装化（技術実装のみならず社会実装）、勉強会・研究会への参加呼びかけ、取り組みの積極的アウトリーチ、など

地域ゼロカーボンWG ≡ CNを通じた地域再生WG



## ②地域ゼロカーボンWG (2021年7月29日総会承認資料)

### 概要

現在約400の自治体が2050年ゼロカーボン・シティの実現を掲げる中、その達成のためには、デジタル化、エネルギーやモビリティ等の構造の転換、適応策の導入や少子高齢化等の地域固有の課題解決などを含めた、SDGs達成に向けて将来世代の利益を最大化するための複合的な価値を実現する地域の社会変革が不可欠である。このため、各地域において、脱炭素化を実現した未来社会像からバックキャストしたシナリオに基づく社会課題解決や経済社会システムの転換に向けて、人文社会科学から自然科学までの知見を総動員し、各大学等が地域の「知の拠点」として自治体や企業等と連携した取組を推進することが求められる。また、これにより実現した先進的な地域モデルを、他の地域や国、世界に展開していく必要がある。このような観点から、地域がシナリオや計画等の策定において汎用的に活用できる知見や、将来世代の利益も踏まえた意思決定や社会変革を導くための仕組みや方法論等を含め、大学と地域が連携した取組や、その横展開やスケールアップ等を支える知見を創出するとともに、その知見や実践を大学等間で共有するための場を創出する。また、各地域の取組を通じて抽出された課題等の共有や議論、発信を行う。

### ミッション

- カーボン・ニュートラルに向けた地域の社会変革を促すための大学と自治体等、企業が連携した取組の推進や、地域事例の横展開やスケールアップ等を支えるための知見の創出とその実装を通じ、多様な地域モデルの構築や他の地域等への展開を図るとともに、取組等を通じて抽出した課題等の共有、議論、発信を行う。

### 活動の方向性

- 地域の自治体や企業等と連携した大学の取組を推進するため、自治体ネットワーク等と連携し、関連する知見や取組の展開、自治体ニーズを踏まえた取組の推進、課題の共有と解決に向けた議論などを行う場を設ける。

#### 【自治体等と連携した大学等の取組例】

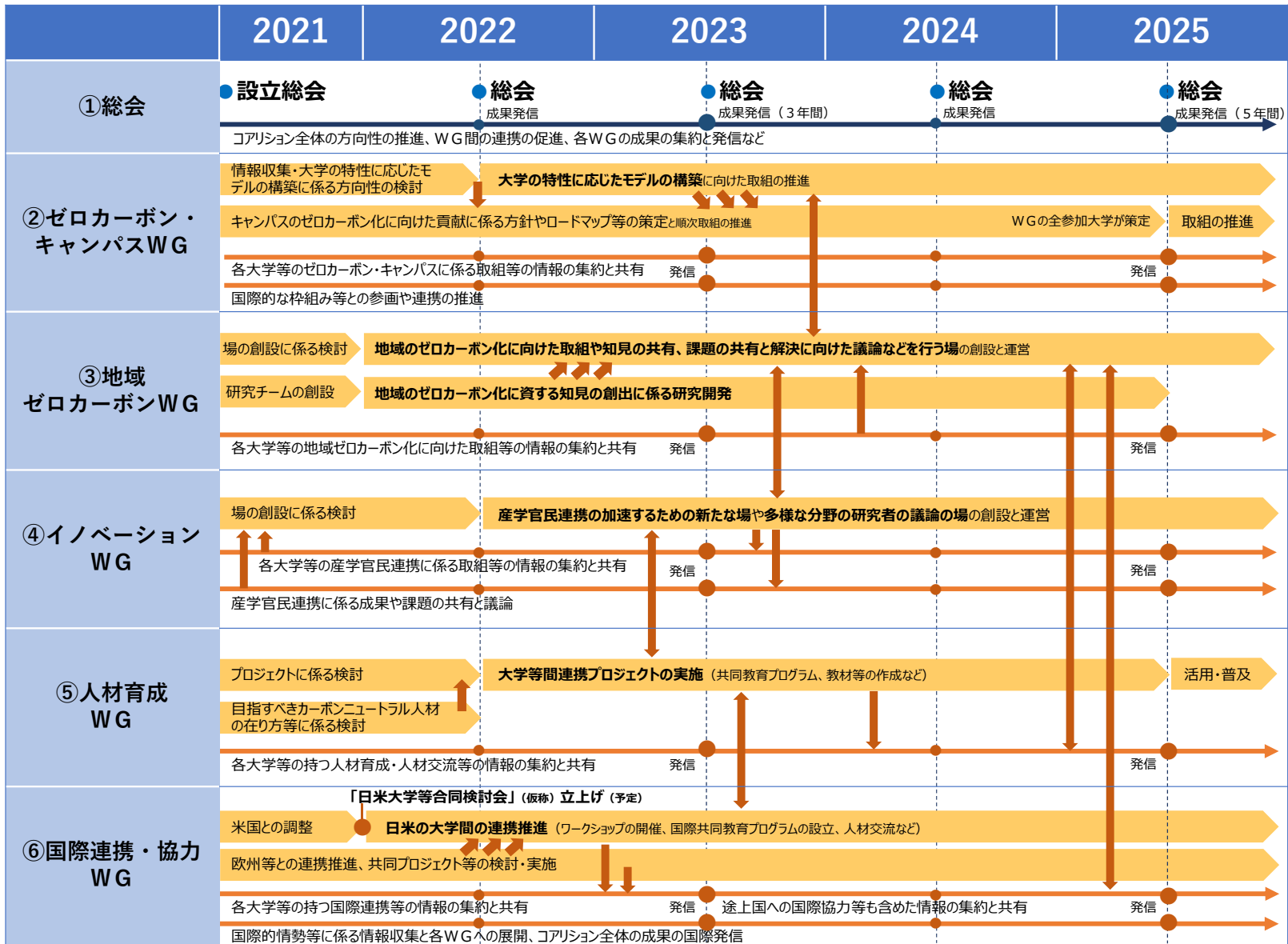
- ・地域におけるゼロカーボン化に向けたシナリオや計画づくりの支援
- ・科学的知見に基づく政策の企画立案
- ・将来世代に配慮した意思決定や計画立案のための仕組みづくり

- 各大学等の取組について集約、発信するとともに、必要に応じ、各地域の実践を通じて抽出した制度的課題等についてとりまとめる。
- 自治体と大学等との連携の取組において活用できる知見やツール等を創出する研究チームを創設し、その成果を展開する。

#### (研究チーム例)

- ◆地域イノベーション手法研究チーム：地域の脱炭素化の推進や評価に汎用的に活用できるツールや、地域のニーズを踏まえた脱炭素化導入手法、脱炭素化ポテンシャルや取組効果の可視化、地域事例の他の地域への導入や国等へのスケールアップをする際の知見などに係る研究開発を実施  
※プロジェクトに応じ、複数設置を想定
- ◆シナリオ研究チーム：関係省庁各法人のシナリオ研究者が一堂に会し、国のシナリオ策定に係る共通認識の醸成や、それを基盤とした地域のシナリオ策定等に活用できる知見を創出するとともに、市民を巻き込んだ実践等を通じた社会実装を促進

# 2021～2025年のコアリション・ロードマップ





## 3/24 シンポジウム アンケート結果 (参加者 205名、アンケート回答者数 69名) 「大学等コアリション・地域ゼロカーボンワーキンググループに期待することは何ですか？」

### 事例紹介への期待は大きい:

- **社会実装につながる活動のベストプラクティスを数々紹介**いただきたい
- **具体的な取り組みストーリーのアーカイブ化とリアルタイムの経過報告**

### 情報公開と連携の場:

- 産官学の連携が必要となるので、**今回のようなオープンな議論**を今後も展開してほしい
- **地域や大学、企業を結びつける**、なにかきっかけになる事例や方策の検討など

### ワーキンググループへの期待:

- **複数の大学が連携して同一の地域(エリア)**でカーボンニュートラルに向けた研究・教育を実践する
- 前回のWGで行った分科会のように、**似たような悩みを持つグループで気楽に話せるようなシステム**

### 地域の将来ビジョン・シナリオ策定と、政策提言への期待:

- **地域の将来ビジョン**の作成
- 大学等がそれぞれの地域でゼロカーボンに向けた取り組みを進める際に**必要となる資源(ヒトとカネ)**を**政府・行政機関や経済団体などに協力(支援)**を求めていくこと。特に中央政府の政策転換を促せるような実績を積み重ねた**説得力のある提案・提言ができるような組織**になっていくこと。



## 6/30 運営委員会でのコメント（運営委員25大学中20大学・41名が参加）

### 3枚スライド・情報共有：

- ◆ 3枚スライドの好事例をより深掘りしたプラットフォームを皆で作っていただけるとよい。（中部）
- ◆ 具体的な事例を聞くことは大変参考になる。他方、結果だけでなく、過程についても共有してほしい。（岡山）

### 地域との連携のあり方：

- ◆ 市町村の特徴を踏まえた小さなケースを積み上げ、これをモデルとして山形県全体に広げていきたいというのが山形大学の考え。他方で、同じ山形県内でも市町村によってかなり多様性があるので、どのくらいのスケールでやるかが課題であり、ぜひこのような場で議論したい。（山形）
- ◆ 茨城県では本学のみならず筑波大学とも協力し、地域一体となって協力していきたい。（茨城）
- ◆ 自治体のカーボンニュートラルに対するニーズについて、組織体として聞き取りや質問、提案する機会があってもよい。（北九州市立）
- ◆ 連携について、セクター別に細分化して地域が抱える課題と大学の知をマッチングしていく進め方も一案。（中部、信州、立命館）
- ◆ 知にアクセスしにくい中小規模の企業や自治体に対しても情報が伝わるよう、うまくつながるとよい。（立命館）

### 学内の仕掛けづくり・組織化、人材育成への期待：

- ◆ 大学横断的な組織を作り、個人プレーではなく大学として対応するという点が重要。（神戸、信州）
- ◆ 地域ゼロカーボンワーキンググループでの具体の地域での自治体や事業者と大学との連携が、大学の中にもよい効果をもたらすと思料。（信州）